

検 査 部

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	2 人	(2 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	26 人	
その他（技術補佐員等）	15 人	
合計	43 人	

2 教員の異動状況

河野雅人（助教）(H25.4.1～現職)

飯野和美（助教）(H17.4.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～H26.3.31)

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	7.02	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	1 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	11.04	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Hozumi H, Nakamura Y, Johkoh T, Sumikawa H, Colby TV, Kono M, Hashimoto D, Enomoto N, Fujisawa T, Inui N, Suda T, Chida K: Acute exacerbation in rheumatoid arthritis-associated interstitial lung disease: a retrospective case control study. *BMJ Open*. 3, e003132, 2013. [1.583]
2. Enomoto N, Suda T, Kono M, Kaida Y, Hashimoto D, Fujisawa T, Inui N, Nakamura Y, Imokawa S, Funai K, Chida K: Amount of elastic fibers predicts prognosis of idiopathic pulmonary fibrosis. *Respir Med*. 107, 1608-1616, 2013. [2.585]
3. Ohba K, Oki Y, Fujita K, Kameko F, Moriyama T, Horiike Y, Morita H, Matsushita A, Iino K, Sasaki S, Nakamura H, Maekawa M : A sudden onset and the spontaneous remission of severe hypo-high density lipoprotein cholesterolemia without serious underlying disease: A case report
Clinica Chimica Acta 426 ; 91-94, 2013. [2.850]
4. 安井秀樹, 横村光司, 松島紗代実, 大山吉幸, 草ヶ谷英樹, 河野雅人, 松井 隆, 須田隆文, 千田金吾: II型呼吸不全を伴う慢性閉塞性肺疾患急性増悪に対する非侵襲的陽圧換気療法の有用性について—当院における治療成績— *日呼吸誌* 2, 163-168, 2013. [0]
インパクトファクターの小計 [7.018]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
 1. 須田隆文, 河野雅人, 大山吉幸, 榎本紀之, 藤澤朋幸, 中村祐太郎, 乾 直輝:
特発性肺線維症(IPF)における肺病変先行型膠原病関連間質性肺炎(CVD-IP).
厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究
平成 25 年度研究報告書. 223-132, 2013.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2-2) レター

(3) 総 説

(4) 著 書

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
 1. Toyoshima M, Suzuki S, Kono M, Nakamura Y, Suda T: Mildly progressive pulmonary

lymphangiectasis diagnosed in a young adult. Am J Respir Crit Care Med. 189, 860-862, 2014.

[11.041]

インパクトファクターの小計

[11.041]

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 25 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	2 件	(140 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	1 件	(80 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 飯野和美 基盤研究（C）

がん転移モデルとしての悪性褐色細胞腫の解析

平成23年度 ～平成25年度 80万円

2. 濱田悦子 奨励研究

ルイス酵素欠損の担癌患者におけるCA19-9上昇のメカニズム解明に関する研究

平成25年度 60万円

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

1. 飯野和美 公益財団法人 黒住医学研究振興財団

悪性褐色細胞腫の早期診断・予後予測マーカーの確立と臨床検査への応用

80 万円

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
(3) 学会座長回数	0 件	2 件

(4) 学会開催回数	0 件	2 件
(5) 学会役員等回数	0 件	3 件
(6) 一般演題発表数	5 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Kono M, Nakamura Y, Enomoto N, Hashimoto D, Fujisawa T, Inuia N, Suda T, Colby TV, Chida K:
Cumulative incidence of collagen vascular disease (CVD) in patients diagnosed with idiopathic pulmonary fibrosis (IPF). American Thoracic Society (ATS) International Conference, May, 2013. Philadelphia (USA).
2. Hamada E, Inaba C, Uchiyama K, Iwahara K, Maekawa M :
Significance of routine matrix metalloproteinase-3 (MMP-3) measurement for follow-up of patients with rheumatoid arthritis, using PANACLEAR MMP-3”Latex” and Hitachi LABOSPECT008
2013 American Association of Clinical Chemistry Annual Meeting, Houston USA, 31 July 2013
3. Hamada E, Noji K, Maekawa M :
Analytical evaluation of soluble IL2- Receptor, ACTH, GH Measurement by Automated Immunoassay System ”IMMULITE 2000XPi”
2013 American Association of Clinical Chemistry Annual Meeting, Houston USA, 31 July 2013
4. Hamada E, Maekawa M :
Evaluation of PANACLEAR MMP-3”Latex” a reagent for Hitachi LABOSPECT008
20th IFCC-EFLM European Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine
Milan Italy, 19 May 2013
5. Iino K, Oki Y, Hamada E, Yamashita M, Yogo K, Shibata S, Ohishi T, Kakizawa K, Maekawa M,
Risk reductions of arteriosclerosis by normalization of hyperaldosteronism state. -Evaluation with the use of both intima-media thickness (IMT) of carotid artery and biochemical markers-
2013 ENDO Annual Meetings San Francisco, USA, 15 – 18 June, 2013

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
 1. 第20回日本遺伝子診療学会大会

平成 25 年 7 月 18 日～7 月 20 日 浜松市

2. 第 24 回日本臨床化学会東海北陸支部総会・
第 32 回日本臨床検査医学会東海北陸支部例会連合大会

平成 25 年 7 月 20 日 浜松市

- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表

1. 飯野和美、沖隆

クリニカルアワー—クッシング症候群 診断・治療の進歩—

副腎性サブクリニカルクッシング症候群の治療適応と予後

第 86 回日本内分泌学会学術総会 平成 25 年 4 月 25 日 仙台市

- 4) 座長をした学会名

1. 濱田悦子 第 60 回日本臨床検査医学会学術集会
2. 山中勝正 第 24 回日本臨床化学会東海北陸支部総会・
第 32 回日本臨床検査医学会東海北陸支部例会連合大会

- (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 飯野和美 日本内分泌学会評議員
2. 濱田悦子 日本臨床検査医学会評議員
3. 濱田悦子 日本臨床化学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

- (1) 国内の英文雑誌等の編集

- (2) 外国の学術雑誌の編集

- (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. 飯野和美 Internal Medicine (JAPAN) 1 回

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 特発性肺線維症(IPF)における肺病変先行型膠原病関連間質性肺炎(CVD-IP)；平成 25 年度に研究成果をまとめ、ATS 2013 でのポスター発表、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究 平成 25 年度研究報告書作成を行った。論文化し、2014 年 4 月に accept された。(河野雅人)

Kono M, Nakamura Y, Enomoto N, Hashimoto D, Fujisawa T, Inui N, Maekawa M, Suda T, Colby TV, Chida K: Usual interstitial pneumonia preceding collagen vascular disease: a retrospective case control study of patients initially diagnosed with idiopathic pulmonary fibrosis. PLoS One. 9, e94775, 2014.

2. COPD における尿中デスモシンの臨床的意義の検討；第 60 回日本臨床検査医学会学術集会（2013 年 11 月、神戸）にて同演題名で一般口演発表した。現在、論文作成中。(河野雅人)
3. 悪性・良性の褐色細胞腫の摘出腫瘍組織を試料に用いた 網羅的オミックス解析（ゲノム・エピゲノム、トランスクリプトーム、およびプロテオーム解析）を通して、本症の悪性化抑制因子や関連遺伝子について検討している。

悪性例と良性例、同一悪性腫瘍症例の原発巣と転移巣 におけるタンパクおよび遺伝子発現の比較解析を行い、癌化に伴うエピゲノミックな変化が疑われる CpG 領域をゲノムワイドにメチル化候補 2 か所 脱メチル化候補 1 か所に絞り込んだ。4 か所の候補 CpG 領域の下流には既知の蛋白として ACSBG1 (Acyl-CoA Synthetase, Bubblegum Family, member 1) および MAST1 (Microtubule Associated Serine/Threonine Kinase 1)が確認されている。(飯野和美)

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道

1. 市民フォーラム

「ここまできた！ここまでわかる！！こんなこともできる！！遺伝子医療」

第 20 回日本遺伝子診療学会大会主催、7 月に浜松市で

教育医事新聞、平成 25 年 6 月 25 日

2. 遺伝子医療の最前線解説 遺伝子診療学会市民フォーラム

静岡新聞、平成 25 年 7 月 18 日

3. 講演会

市民フォーラム「ここまできた！ここまでわかる！！こんなこともできる！！遺伝子医療」

中日新聞、平成 25 年 7 月 19 日

4. 講演会

市民フォーラム「ここまできた！ここまでわかる！！こんなこともできる！！遺伝子医療」

読売新聞、平成 25 年 7 月 12 日

5. 最新の遺伝子医療解説 中区で市民フォーラム

静岡新聞、平成 25 年 7 月 21 日